

「インスタ映え」の宝庫、長崎県。その中でも全国的に注目を集めているのが諫早市小長井町にある「フルーツバス停」だ。

諫早市中心部から佐賀方面へ国道二〇七号を進み、小長井町に入ると、フルーツの形をしたバス停が次々と目に飛び込んでくる。約三十年前に登場したこのフルーツバス停は、長崎県民にとっては「昔から知っている小長井名物」だが、近年、若者たちの間でSNSを通して「かわいい！」と人気に火が付き、今や毎日のように全国から観光客が訪れている。あまりの人気に、二年前には色を塗り直して「お色直し」。今では「ときめきフルーツバス停通り」と名前が付けられるまでになった。

フルーツバス停誕生のきっかけは、一九九〇年に開催された「長崎旅博覧会」。訪れた人に地元の特産品を知ってほしい、まちを楽しんでほしいと、当時の小長井町が県営バスの停留所を整備したのが始まりだ。バス停をフルーツにするという斬新なアイデアは、グリム童話の「シンデレラ」に登場するカボチャの馬車がヒントになったともいわれている。こうして高さ約四メートルのコンクリート製のフルーツバス停は、まちのシンボルとなった。バス停はイチゴ、ミカン、スイカ、メロン、トマトの五種類。海沿いの通りに十四カ所設置されている。

撮影の仕方はさまざま。お姫様のようにニッコリ佇んでみたり、離れたところからフルーツが手の平に乗っているように撮影してみたり……今日も多くの人々が、それぞれ思い思いの一枚を収めている。

国道に  
突如現れる  
可愛い果物たち

# フルーツバス停



※フルーツバス停は住民の方の足となっているバスの停留所です。  
事故や渋滞の原因となる行動は避け、マナーを守って撮影してください。

まるでわたしの国のようなフルーツの数々。カラフルで可愛いデザインは、女性や子どもたちに特に大人気だ。

